熊毛地区社会教育委員だより

令和2年2月発行
熊毛地区社会教育
委員連絡協議会

「子供を育てる地域力」

熊毛地区社会教育委員連絡協議会
会長　加納　洋一

現代社会を取り巻く環境を見ると，自ずと見えてくるのが，少子高齢，人口減少，出生率の低下ではないでしょうか。要因は色々とあろうと思いますが，私たち熊毛地区の１市３町においても，それぞれの地域が抱える大きな課題であると思います。

私の住んでいる地区も例外ではなく，現在では小学生も30人程，中学校も20年前に統合されて，町内に１校しかありません。そのような中，最近は地域で遊ぶ子供たちを見かけなくなりました。これからの地域の将来を危惧し，案ずるところです。

私も子供を持つ親の１人として長年，ＰＴＡ活動にも積極的に参加してきたつもりです。家庭を持ち，子供が生まれ，小学校，中学校，高校と進学し，一人前の社会人になるまでに如何ほどの苦労があったものか。どの家庭も一緒で，家庭の形こそ違うものの同じように一生懸命努力をされ，我が子を自分たちの宝として社会に送り出してきたことでしょう。

地域活動の中で，児童・生徒をリーダーにして行っている第３土曜日の青少年育成活動を取り上げてみますと，毎月行政無線で放送もしながら周知を図っております。子供が比較的多い中心地域ではまずまずの参加人数になるようですが，いくつかの集落では，児童，生徒がほとんどおらず，活動ができない地域もあるようです。我々，地域の大人は，子供たちを守り，指導，育成していかなければならない責務があります。昔，我々も同じように地域の方から，指導，育成をしていただいたのですから。

青少年活動の基本は，子供たちの主体性を促すことにありますが，そこで地域の我々が，ちょっと手を差し添えてやる，その手助けは不可欠です。

「子供は地域の宝」という共通認識のもとに，地域全体で携わっていくことが大事だろうと考えます。

社会教育委員連絡協議会評議委員会

「子育ての最終責任は親にあり」

南種子町ＰＴＡ連絡協議会
会長　林　良和

県ＰＴＡ連合会の活動基本方針に，「子育ての最終責任は親にある」とあります。数年前の熊毛地区のＰＴＡ標語の中に「うちの子を叱ってくれてありがとう」という標語がありました。「家庭，地域で子供たちを見守り，育てましょう」という考え方だと思います。

子供への虐待が社会問題化し，自分の子供へのゲンコツすら許されない時代です。最終責任は親にありと言いながらも子育てにマニュアルはなく，試行錯誤の日々です。

社会情勢がめまぐるしく変化し，子供たちを取り巻く環境も日々変化しています。このような時代でも子供たちが安心，安全に生活が出来るように親の教育力を身に付けなければなりません。その一歩として家庭でしっかり親子で話し合うことが大事かと思います。

ＳＮＳの発達は，子供たちだけでなく大人の世代も中毒化しています。まずは親がスマホを置き，子供たちの日々の生活に，学校生活に興味を持つ，そして子供の話をよく聞く。ごくごく普通のことかもしれませんが，それが親の教育力を付ける一つの手段かもしれません。

「うちの子を叱ってくれてありがとう」，地域の皆様には熊毛地区の子供たちが安心，安全に生活が出来ますように見守りを宜しくお願いいたします。「子育ての最終責任は親にあり」，子供が言うことを聞かない時は，親子共々叱ってください。よろしくお願いします。

「子どもたちの豊かな発想」

屋久島町教育委員会教育振興課
社会教育指導員　轟木　利奈

屋久島町の35単位子ども会の活動はさまざまで，地域によって面白い活動をしているところがあります。キャンプやＢＢＱ，ラジオ体操など定番の子ども会活動の他に，田植えやバウムクーヘン作り，集落のカーブミラー磨きなど，ユニークな活動がたくさんあります。

今年，面白いと思った活動は「夏休みの勉強会」でした。ある子ども会の活動で，集落の集会所に集まり夏休みの宿題や分からない問題を

解くというものでした。初めに活動報告書を見たときは，「これが子ども会活動なの？」と思いましたが，内容を読んでみると，上級生が下級生に分からない問題を教えるなど，しっかりとした子ども会の活動が出来ているようでした。

私も今年，娘が小学生になったので初めて育成者になりましたが，私のように「子ども会ってこうでしょ！」と思っている育成者は多いと思います。しかし，子ども会活動はもっと自由で，子供たちがやりたいことを，子供たちが話し合って決めてもらえれば大丈夫なのです。初めて育成会長さんに選ばれた方々は，何をどうしていいのか分からず困ってしまうところも多くあるようです。役員さんの負担だけが大きくなり，子ども会活動そのものに疑問を持ってしまう団体もあります。そんなときは，もっと子供たちの豊かな想像力と行動力を信じて，色々と任せてみればいいと思います。小学生から中学生まで集まれば，大人には思いつかない面白いアイデアがたくさん出てくると思います。

私も子ども会に携わるようになり，私自身が子供の頃に経験した子ども会活動を思い出すことがあります。普段遊ばないお姉さんやお兄さんに構ってもらって嬉しかったこと，クリスマス会でのプレゼント交換に「兵六餅６個セット」が含まれていて笑ったことなど，鮮明に思い出すことが出来ました。異年齢の集まりの中で，年齢の違いを活かして活動することは，子供たちにとってとても貴重な時間になると思います。育成者の方々は，子供たちが安心・安全に活動できるようサポートしながら，子供たちの成長を温かく見守ってほしいと思います。

あいさつ看板づくり（永久保子ども会）

「少しの難儀を喜びにかえよう」

屋久島町地域女性団体連絡協議会
会長　山﨑　奈美子

今年度は，「自然災害時に女性団体は，どのような役割を果たせばよいか」というテーマで，研修や活動を進めています。屋久島は，口永良部島の噴火や台風や豪雨災害，地震や津波など自然災害が常にあるかもしれないと考えておく必要がある島です。そこで，６月の総会に合わせて，平和町海岸地域津波対策協議会会長の矢野憲一さんに，「津波の避難と備え」と題して，講話をいただきました。災害に備えて持ち出す品物を，実際に見せることで，必要な物がよく分かり，しっかりと備えておこうという気持ちになりました。私たち自身がしっかりと避難した上で，他の方々と協力して避難所の炊き出しや，助け合いを進めていく必要があることが，講演後の役員会や地域で話題になりました。

さて，屋久島町では，他市町と同様，各地域での女性団体の活動は活発ですが，全ての集落の女性団体が町の組織に入っている状況ではありません。そのため，町女連の活動は，各集落のリーダー（役員）が中心となって活動し，必要に応じて集落から手伝いをいただいたり，研修会に参加していただいたりしている状況です。今年５月の大雨で登山道の崖が崩れ，観光客が取り残された際も，町と協議して，できることを役員間で話し合って，精一杯いたしました。また，今後も，更に大きな災害が起きるかもしれません。その際は，町女連の全島に広がるネットワークと，大胆な行動力，そして女性ならではの細やかな配慮で，対応できるように，これからも研修や話合いを重ねていきたいと考えています。

また，赤十字の活動や世話焼きキューピッド事業，複十字シールの募金活動など，年間の活動は面倒で難儀とも言われますが，その少しの難儀が，自分を含めた全ての人々の幸せにつながることを願いつつ活動し，全ての会員の喜びにつながればいいなと日々思っています。

自然災害に備えた研修会（避難時の用品）

「思うこと」

中種子町自治公民館連絡協議会
会長　森山　昭市

私は，今年度本町の岩岡校区長に指名され，その縁で上記の役職に就いています。

社会教育について専門的な知識及び経験がないために，趣旨に沿った題材の提供はできませんが，普段考えていることを皆さんに紹介します。

私は35年間地元の役所に勤め，定年退職して２年目が過ぎようとしている身であり，ただ「勤勉」を善としてこれまで来た世代の独り言として，読み流していただきたいです。

まず「人生は思い通りにはいかない」と心得るべきであり，希望する学校に合格できなかったり，望む会社に就職できない事もあります。そこで目標を達成するために，更に挑戦することも大事なことではありますが，逆に与えられた環境で自分の力を試すこと，目標を定めその実現のために最大限の努力をする事も方法ではないでしょうか。

また，目まぐるしく変わっていくこの時代においては，一人一人の価値がかつてないほど重要になってきています。組織を生かすかどうかは「ジンザイ」次第といえます。この「ジンザイ」について，ある人が語っていました。横軸が専門性，縦軸がやる気というグラフを示し，両方ともそろった人がまさしく「人財」，両方とも欠ける人が「人罪」，そして専門性はあるがやる気がない人は，ただそこにいるだけの「人在」とのことでした。

せめて，やる気だけは人には負けない「人材」育成ができる社会教育活動ができたらと思います。

“地域教育”に携わる喜び

中種子町ＰＴＡ連絡協議会
会長　山浦　拓己

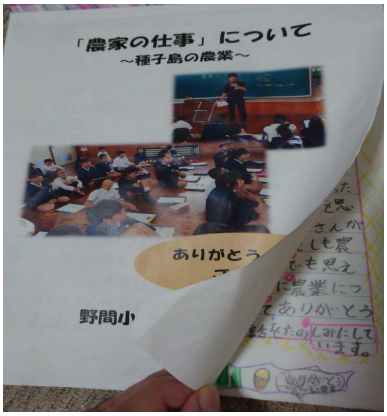
先日，中種子町立野間小学校の社会の授業の外部講師として「農業」の話をしてほしいと依頼を受けました。「農家のおじさん」による農業の授業が子供たちにうまく伝わるか心配したところでしたが，話を聞く子供たちの目は真剣で，質疑応答では質問の嵐でした。私は茶農家で，日本茶インストラクターという資格を持っており，種子島の各校で「お茶の淹れ方教室」をさせていただくこともありますが，子供たちにおいしいお茶の淹れ方を教えると目を輝かせて感動してくれます。子供が“本物”のお茶に触れた瞬間です。

最近では，インターネットの普及によってあらゆる分野の知識を簡単に得ることができるようになりましたが，その知識が“本物”であるかどうかは別問題となります。インターネット上に溢れかえっている情報の中から，正しい情報を選択していく能力が必要とされていきますが，その能力は自身がこれまで直接見たもの，触れたもの，聞いたもの，感じたものによって培われていくものでしょう。そういう意味では，教科書でなく，インターネットでもない“本物”に触れることは子供にとって大きな財産になると思います。

先日，教育機関の方と外部講師について意見を交わしたところ，そうした機会を確保したいのですが，なかなか講師が見つからない状況で，意外と地域にたくさん埋もれているのですが，なかなか表に出てきてくれませんとのことでした。教育現場と地域の関わりを強めながら，埋もれた地域の人材を見つけることの必要性を感じたところです。

一方，自分が講師を引き受けて思うことは，授業や講義を行うことで，自分自身の学びになるということでした。自分の専門分野であっても人前で話をするとなれば，内容に誤りがないか確認もするし，飽きさせないための余談も用意したり，話す時間配分も考えたりします。そうするうちに，自分も新たな知識を習得し，話すスキルも上達したことが嬉しいです。孔子の論語の一節，「子曰く，学びて時にこれを習う。またよろこばしからずや。」の心境です。

教わる側も教える側も学びにつながる「地域教育」は，まさにＷｉｎ-Ｗｉｎの関係であり，子供たちの“本物”の感性を培う取組として広がることを期待いたします。



野間小学校から贈られた「感想文集」

知恵と実践で思いやりのある女性活動の場を

西之表市地域女性団体連絡協議会
会長　鮫元　ミツ子

西之表市地域女性団体連絡協議会は，各校区や自治会に組織されている単位女性団体の連絡協調を図るため設立されました。女性の活躍，社会進出に伴い，仕事をもち，自分の意見を堂々と伝えられる方が増えてきていることを大変喜ばしく歓迎する一方，多忙さゆえか組織を脱退していく個人や団体があったり，若い方の未加入があったりする中で，規模が縮小傾向にあることに少し寂しさを感じています。

自主活動として年２回実施している料理教室では，会員相互の親睦を図っています。また，行政や地域，各種団体の主催イベントへの協力参加支援を行っています。今年度は，８月に開催された「種子島鉄砲まつり」に参加し，行列の先頭に立って元気いっぱいに手踊りを披露しました。要望があればその指導にも伺いますし，実行委員としても運営に協力させていただいています。また，日本赤十字社の赤十字奉仕団研修会は，参加した会員の資質向上に役立ちました。

平成31年１月23日，女性連が中心となって，「西之表市女性のつどい」を行いました。これは，２年に１回ＪＡや商工会など市内の８つの女性団体の親睦を深めるとともに，今後の更なる活動推進のため開催しているものです。講演をしてくださった市生活支援コーディネータの笹川美子氏が「皆で集まり，活動することが健康で元気に長生きすることにもつながる。このような集いを今後もぜひ続けてほしい。」と話されると，出席者は熱心に聴き入っていました。

講演の後は，お待ちかねの大演芸大会。各団体から次々に歌や踊りが披露され，会場は大きな拍手と笑い声に包まれました。最後は出席者全員で手をつなぎ「星影のワルツ」を歌うことで，今後の互いの協力・連携の気持ちを改めてひとつにしました。これからも思いやりのある知恵と実践で，心豊かで幸せな社会の実現を目指していきたいと思います。

「市女性のつどい」演芸の様子

青少年の健全な育成を目指して

西之表市立青少年指導センター事務局
社会教育指導員　小倉　真紀代

社会教育指導員として任命され，間もなく10年を迎えようとしています。主な担当業務は，市立青少年指導センターと市子ども会育成連絡協議会の事務局，それに社会教育課に設置している家庭教育相談窓口での相談業務です。

市立青少年指導センターは，青少年の補導に関する機関及び団体との密接な連携のもとに，市内における非行化又は非行化のおそれのある青少年を早期に発見し非行の防止に努めるとともに，健全な育成を図ることを目的としています。所長は，社会教育課長が兼務し，各関係機関から選出された運営委員14人，市内各小中学校，高等学校，警察署及び社会教育課から選出された指導員64人で構成されています。

今年度は，６月25日に運営協議会を開催し，前年度の活動報告と今年度の事業計画などについて協議を行いました。その後，指導員会も開催し，種子島警察署の職員の方に「青少年非行の現状について」と題した講話をしていただき，併せて指導センターの申合せ事項等の確認を行いました。

センターの主な取組としては，指導員による各校区内での定期的な巡回補導活動と学校の夏季休業中に開催される「種子島鉄砲まつり」の際の指導員全員による合同街頭補導があります。指導員全員が，腕章をつけて巡回するという「見える行動」を行うことで，補導活動の周知を図るとともに，非行防止につながると期待しています。巡回後は，指導員による補導記録簿を提出していただいていますが，幸いにしてこれまでのところ重大な事件・問題につながるような事案は発生していません。ただ，近年，街に青少年の姿を見なくなったという意見も出てきています。問題行動が見えづらくなっていることも考えられます。引き続き関係機関と連携し，地道な活動を続けていきたいと考えています。

業務の内容上，青少年と接する機会の多い立場にいますが，対応や言葉の伝え方に難しさを感じることが今なおあります。一方で，接する回数が増えてくると，街なかで声をかけてもらうこともあり，じっくりじっくりではありますが，関係性を築けているということにとてもやりがいを感じています。